

調査日 素材生産協同組合 1月11日

今回素生協 県森連ともに初市が開催された。

両方とも見る訳にも行かないので、まず素生協へ足を運んだ。

今回私は素生協だけを見に行ったが、前橋でも入札を済ませて鬼石へ来た買い方も多くいた。

前橋共販所の入札締め切りは 13:00 なのに対して素生協の締め切りは 14:00 なのである。

前橋でも札を入れて、結果を聞かずに鬼石へ急ぎ札を入れる。これは年始の挨拶と言う

意味合いの方が強いかもしれない。初市には必ず参加する事で、市場への義理を立てる。

昔気質の買い方には、ご祝儀・お年賀 で入れる札も有るのだ。

ただし、私は参加者から情報を得たり、入札の結果から原木市場の動向を見なければ

ならないので、掛け持ちと言う訳には行かない訳だ。

動向と言う点では、こちらの市場の方が、時の市況の変化が敏感に表れることがある。

もちろん出品されている物によるが、林ベニア・イトチュー・住友林業 など大手の買い方の

動向は、広い範囲の材の動きを察する窓口になる。

今回は到着すると事務所の建物が見えないほど、入口に材が入荷している。

買い方は、口々に「事務所が移転したかと思った」などと冗談が出るほどだ。

新井前所長は「あまり付き合いが無い森林組合が置いて行った。」と少し不機嫌だ。

「埼玉の組合か？」と聞くと「とんでもない、埼玉の森林組合は大事なお得意様だ。」

との事だった。素生協は基本的に出荷者を教えない。木口には出荷者番号が書いてあるのみだ。

常連の買い方はある程度察しが付いている様だが、あまり気にしない。素材生産業者は様々な

場所で仕事をするので、生産地には繋がらない場合が多い。

買い方は現物を見て、どの辺りで育った木なのか？ 土壌の厚い場所か・岩場が多い所か

また 寒い所で雪を背負って育った木か？などを判断して価値を決めている。

ある程度地域性がある森林組合の市場と違う点だ。

ちなみに、雪の多い地域で雪の重さに耐えて育った木は、アテ材と言い木口の年輪幅や色では

見分けが付かないが、硬さのおらとなって現れる。と言っても長年にわたり製材を手掛けた者でない

見抜けないものだ。こう言った材は強い内応力があり、鋸が通過すると同時に曲がってしまう。

時には内側に曲がって鋸を締め付け、高速で回っている鋸を止めてしまう事すらある。

今回入荷した中には、カラマツが目立った。入札に掛かった物件にもカラマツが多く 180㎡ は

出ていた。合板や集成材が動き出したか？と思われたが、思ったほど値は伸びず、まだ動きは

感じられない。カラマツの太物は合板の機械に入らず、昨年から居残っている。

こうなると群馬県のカラマツは狂いが強く、使い道に困る。草津以北なら長野産に引けを取らない。

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 1月22日

今年は素生協と初市の日が重なり、県森連には不義理をしてしまったが、古巣という事で大目に願いたい。

こちらも出荷はまずまずと言った所だが、こちらはスギの40～50年生位が多く入荷していたように思う。市に掛かっている物件はそう多くはなかったが、これは11日に初市を行ってから10日しか猶予が無かったせいで、今回の市では66件だった。

昨年暮れ位から現れていた兆候だが、スギの3.0m 柱材が売れ始めた。

最初は柱材専門の製材業者が買い始めたが、徐々にすそ野を広げ始めて、あれ程無視されていた16cm～18cmの太さの物件が、何事もなかったかのように当たり前のように売れている。

その他 一昔前の14cm～16cmといった極ができていて、こちらも売れている。

スギもヒノキも角材用の芯持ち丸太は、細目でもある程度は売れている様だ。

昨今 県産材への助成事業が削減され、需要動向も変化があると言うが、その影響か？

つまり 県産材の12cm角が多く使われたのは、県の助成事業の対象となる為の必須項目であったためである。助成事業が無くなり、諸物価が値上がりする中で、住宅の設備工事も高くなる中でどこで価格を抑えるかと言えば、もう無理をして12cm、つまり4寸角を使うメリットは無くなった訳だから、昔ながらの10.5cm、3寸5分角を使おうと言う動きである。だからこれは県内限定の需要動向と言える。柱材の1辺が"15mm細くなるだけ"などと思うなかれ、これは重大な変更である。

柱の太さは、その建物全ての部材の基準になる。

つまり3.5寸角の柱を立てる土台も3.5寸である。また柱の上に乗る桁類も3.5寸となる。柱の間隔で窓や出入口と言った開口部の上は桁の高さは高くなるが、厚みは3.5寸に変わりはない。更に間柱も含めて、すべての部材がダウンサイズとなる。

曲がり材も3.5寸角を挽くには問題ない。かつては曲がり材を使って家を建てると、壁の中で材の狂いが生じ大壁が波打つと言われたが、今では乾燥技術や集成技術が進み問題はない。

入札の様子を見ると、応札枚数は良く入っていると思う。但し単価は特別良いわけではない。

売れている物件には複数の札が入っていて、1枚札の落札は少ない。皆同じ物件を見ている訳だ。

それと2番札も近い数字なので相場は安止まりで、今後暫くは横這いかジリ貧で推移か？

それにしても、欄外の応札枚数と2番札を見ると、皆同じ物を同じ値段で欲しがっている事が

良く判って面白いものだ。無入札の物は誰も見向きもしていない。